



令和8年4月15日
第904号

一般財団法人日本遺族会
千代田区千代田五丁目六番五号
九段南テラス四階 03-3261-5521
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
編集長 重井 敬
発行人 回15日発行
編集費 毎月1部130円(税込)
定価

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰籍救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

好業 友事 霊善 慰親 ミャンマーで35周年に幕 慰霊と国際親善新たなステージへ

戦没者遺児による慰霊友好親善事業は参加遺児の高齢化により令和7年度で終了となる。最終地域は本事業を契機とし小学校3校を建設寄贈し本会の国際親善を結実させたミャンマーとした。遺児と次世代が戦没者への慰霊と共に涙し、旧戦域の生徒との交流、語り部研修を通して記憶の継承の機運が芽生えた全9日間の記録を紹介したい。

3月7日から9日間の行程で前後2班編成のミャンマー慰霊友好親善訪問団を実施した。本事業は、亡き父の終焉の地を巡り心ゆくまで慰霊追悼を行い、図らずも戦渦に巻き込まれた旧戦域の方々と友好親善を重ねたいとする遺児の思いを形にしたもの。平成

3年からの絵実施回数はいずれも454回、広大な旧戦域に約1万6700人が渡航した。この間、学校、病院、児童施設等を訪問し、学用品、衣類、車いすの寄贈、植林などの社会奉仕を重ねた。ミャンマーは開始翌年の平成4年より実施。総実施回数46回(ミャン

マー・タイ実施を含む)延べ1743人の遺児が全土で慰霊と友好親善を重ねた。中でも平成9年に訪れた学校で教員から雨季には学校全体が水でぬかるみ、マラリア蚊の発生を恐れた保護者が子供を通わせないとする話に心を痛めた遺児が、浄財を集め、支援金を渡し施設の

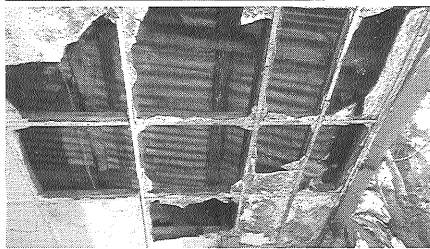
め学校の補修を提案したことがきっかけで、本会が全国の遺族に呼び掛け3校の学校を建設、寄贈した。家計が理由で進学を断念した自身の体験を重ねた遺児が教育の充実を求めたものである。寄贈後、毎年学校を訪れ交流を継続すると共に、支援金を渡し施設の修繕を重ねてきた。しかし、ミャンマー国内の政情不安により令和2年以降、同地を訪れることもままならず、送迎することも出来なくなっていた。本事業の最終実施地域をミャンマーと定め、2年にわたり厚生労働省、外務省、在ミャンマー日本国大使館との交渉、情報交換を重ね、実施の運びとなった。現地の交通事情を考慮し2班編成とし、前班30名(遺児23名、付添7名)は7日から11日まで、後班は29名(遺児23名、付添6名)9日から15日の行程で渡航。安全性が担保されるベグーまでを行程とし、ヤンゴン、ベグーの個人慰霊祭、北オカ



(前班) ミャンマー全土の戦没者の冥福を祈る参加者 = 3月10日、ベグー・カバエバゴダで



(後班) 戦没者に思いを語りかける遺児に寄り添う次世代参加者 = 3月12日、ヤンゴン・インヤールイクホテルで



天井がはがれ雨漏りがする廊下 (ヤンゴン、北オカラッパ第14小学校)



ガラスの窓が壊れている教室 (ベグー、カドウィンチャン小中高等学校)



全戦没者追悼式で戦没者の御霊に歌を捧げる訪問団 = 3月11日、ヤンゴンで

声なき声

川端康成の短編集「雪の舞」に「さくら」という一篇がある

▼出征を前にした青年が別れの挨拶に近所の家を訪れる話だが、その家の娘と青年はおそらく幼馴染で互いに好意を寄せている。戦地から生きて帰って来られるか分からない状況下で「身体に気をつけて」と言葉をお互いに交わすだけの二人は、視線のみで気持ちを確かめ合っているようである。多くは語れないため読み手によって解釈が違ったりもしないが、娘の母親が青年に手渡すさくらの実を介して相手への情愛が切なく伝わってくる名編である。当時戦地に赴く人へどんな言葉をかけてよいか分からなかったかもしよかもあったと思うが、見送る人誰もが、生きて戻ってきて欲しいと願っていたことは確かである。▼佐賀県遺族会会長の創作朗読劇「出征兵士を見送る家族の物語」は、身重の妻がいる長男の出征が決まった日から戦死公報が届くまでの話で、平和とは何かを痛切に問いかけている。▼長男の戦死を知った父母は生きる気力を失い、妹は悲しみから逃れるよう家を出て、夫に代わり一家を守る決意をする妻の苦勞が暗示されて劇は終わるが、出征後に無事産まれた子供が、家族にとってかけがえのない希望であったことは間違いない。故、重みがある内容となっている。(S)

靖國神社

みたままつり 献灯のご案内

靖國神社みたままつりが、7月13日から16日までの4日間賑々しく執り行われます。ご遺族・崇敬者の方々など、多くの皆様の献灯をお願いいたします。

献灯初穂料 ○小型献灯 1灯につき5千円 ○大型献灯 1灯につき2万円

[お申し込み・お問い合わせ] 靖國神社事務所 献灯係 〒102-8246 東京都千代田区九段北 3-1-1 電話:03-3261-8326(代表) FAX:03-3261-8320(直通)

好事 友事 慰親 靈善 寄贈2校を6年振りに訪問

交流に笑顔、校舎老朽化深刻に

遺児慰霊友好親善事業は慰霊と友好親善を目的とし、友好親善の主たる訪問先として各地の学校を訪れている。本事業の訪問がきっかけで全国の遺児の浄財により建設寄贈されたミヤンマーの学校2校を6年ぶりに訪問した。児童・生徒の瞳の輝き教職員らの温かいもてなしに感動した一方、校舎の老朽化の深刻さに早急な補修に向け検討を加速する。

本会は平成11年度から3年間でミヤンマーに3校の小学校を建設寄贈した。建設の経緯は平成9



教職員によるサプライズお茶会=3月10日、ペーカドウィンチャン小中高等学校で

年遺児慰霊友好親善事業でミヤンマーの小学校を訪れた際に聞いた小学校教員からの学校環境を心配する声に心を痛めた遺児による呼びかけだった。(詳細は1面)



郷土玩具の紙風船を使い遊びで交流=3月13日、ペーカドウィンチャン小中高等学校で

面に進学を諦めた多くの遺児は他人事と思えず、浄財で学校を修繕する案が持ち上がり、実現に向けた準備を進め、素直に謝辞を述べ、素晴らしい校舎に通学希望者が増え、現在小学生約700人、中学生約200人、高校生約50人、在籍の1000人規模の小中高等学校となっていると話した。

部研修会で前夜10班にわかれ制作したメッセージカードを手渡し、参加者一人一人が心を込めて折った鶴を贈呈した。

3月11日前班で訪問。校門で出迎えた児童より花束が手渡され、思いがけない贈り物に参加者は笑顔がはじかれた。

重井前班団長が代表し参加者が持ち寄った学用品、衣類を総括団長が代表して校長先生に手渡した。次いで、語り部研修会で作成した動画、写真集などを校長先生に手渡した。

校長先生は遺族の支援に謝意を述べ、一方、施設の老朽化に対する支援を求めた。参加者が寄せたメッセージは「良く学んで遊んで」「家族を大切に」など、温かい言葉が寄せられた。

先の大戦の体験者は我が国では1割、旧戦域ではほぼ皆無、他方世界では争いが繰り返されていく。だからこそ遺族会が記憶を伝え、次世代との交流により恒久平和への思いを確実に継承し、本事業を総括した新たな国際交流の検討に入る決意を固めた。平和への歩みを止めてはならない。

ミヤンマー訪問団 国内外で報道発信

戦没者遺児による慰霊友好親善事業はミヤンマー地域をもつて終了となった。本事業の意義と慰霊に終わりはないとする参加者の思いを広く報道してもらって、厚生労働省へ依頼し、記者クラブへリリースした。

1月15日のリリース当日から共同通信社により配信された。その後、在ミヤンマー日本国大使館からもリリースされ、国内5社、海外3社から申込み5社、地方大手紙、地方紙では出発前から参加者の思いが紹介された。また、海外ではNHK共同通信社による同行取材を受け、全戦没者追悼式に加え、2校の学校訪問、語り部研修も取材された。12日にはNHKおはよう日本でも放送され、ワールドニュースでも放送された。

送られた。共同通信社、時事通信社(バンコクのみ)の記事は即日配信され、大手紙や多くの地方紙に遺児の紹介が紹介された。次世代付添者に関する報道も散見された。

中東情勢の不安定化に伴い、平和を求める声が高まる中で、改めて本事業に注目が集まったと思われる。

今後地方局の放送も控えており、夏に向け多くの報道が見込まれている。

平和の語り部事業 各地の取組み活発に

〇静岡県2月21日 静岡県遺族会はより参加者を増やし、研修会を充実させるため、県全体の研修会を今年度から東・中・西部地区に分けて実施している。増田幹夫会長は地元西部地区では自身も語り部になり、井市に参集。袋井市からは遺児の手記を元にした

紙芝居、浜松市からは遺児より地元に住まう武井、百武源吾氏の講話の委託事業「語り部の会浜松」より戦争を考えた講話が披露された。増田会長は戦後生まれの初代会長として試行錯誤の

役員、職員合同語部研修会を開催。冒頭2月の本会戦跡語り部巡拝に参加した熊谷兼樹青年部副部長が報告。次いで挨拶に立った石原道夫会長は「語り部事業を地域に広げよう」と呼びかけ、地域の活動振興がなされた。

中岡誠副会長は地元津和野町の取組を報告。語り部講話の開催を町に打

り起し継続して実施。奥出雲町では慰霊碑統一事務局長が紹介。町では町内の慰霊碑を紹介する動画を地元ケーブルテレビ局に掛け合い制作。終戦の日に合わせて映すなど積極的な活動を続けている。

錦織由理女性部部長は自分史アンケートから語り部となる取組を語り、会では親会・女性部・青年

部研修会で前夜10班にわかれ制作したメッセージカードを手渡し、参加者一人一人が心を込めて折った鶴を贈呈した。

3月11日前班で訪問。校門で出迎えた児童より花束が手渡され、思いがけない贈り物に参加者は笑顔がはじかれた。

重井前班団長が代表し参加者が持ち寄った学用品、衣類を総括団長が代表して校長先生に手渡した。次いで、語り部研修会で作成した動画、写真集などを校長先生に手渡した。

校長先生は遺族の支援に謝意を述べ、一方、施設の老朽化に対する支援を求めた。参加者が寄せたメッセージは「良く学んで遊んで」「家族を大切に」など、温かい言葉が寄せられた。

先の大戦の体験者は我が国では1割、旧戦域ではほぼ皆無、他方世界では争いが繰り返されていく。だからこそ遺族会が記憶を伝え、次世代との交流により恒久平和への思いを確実に継承し、本事業を総括した新たな国際交流の検討に入る決意を固めた。平和への歩みを止めてはならない。

使用したPP資料(スライド)を作成し実施された。阿戸淳一青年部長は青年部として対応を投げかけ、学校での読み聞かせ、8月のイベントとして、いとなみづくり、オンラインを結んだ著名人の講話会などの意見が挙がった。

この他、学校講話に使用されている戦跡巡拝参加者が制作したDVDや秋田県女性部制作のDVDを視聴し、記憶継承動画の内容についても話し合った。各地での学校講話が県事務局に報告されていることも判明し、一体となって推進することが確認された。

今日も全国各地で語り部講話に向けた模索が続けられている。

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

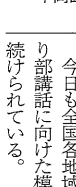
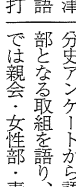
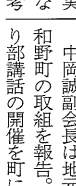
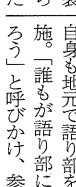
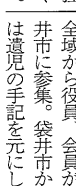
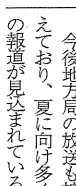
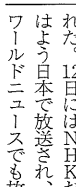
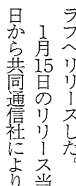
父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で

父から送られた手紙を元に講話内容を説明する中岡副会長=2月27日、高橋県松江市で



好業友事 35周年の締め括りに語り部 慰親 霊善 慰親

記憶の継承・国際親善次世代へ

遺児慰親友好親善事業は旧戦域で父等に慰霊を捧げ、友好親善を重ねる中で、恒久平和への思いを強くし、参加者の多くが、遺族会活動に参画した。近年は研修会や学校で本事業の体験を語り戦争と平和を伝える語り部が増えてきた。国民の9割が戦後生まれとなる中、自らの思い、家族の思いに向き合い語り合った研修会を紹介したい。

今年度全国で実施された語り部は1981回、うち学校等での講話は808回を数え、令和6年度比約4倍増となっている。(令和8年3月末時点)令和8年度の依頼も増え続け、語り部の確保育成が急務となる。急増の背景は、節目の年に文部科学省から教育委員会へ通知されたこと。委員会は、遺族会の語り部そのものへの評価も挙げられる。戦争によって父を失い、生涯癒えることのない傷を抱え生きている遺児の思いは、確実に垣間、生徒(伝わり)に届く。今後次世代への継承が喫緊の課題となる。そこで、本事業が終了する令和7年度は、3地域(洋上慰霊、フィリピン、ミャンマー)それぞれ語り部研修を実施した。フィリピン地域では、班ごとの移動、時間的に余裕がない中、配布した余白がない中、配布した用紙を家族史(付添者)用紙と見せしめ、前後にミャンマーでは、前後に分かれ語り部研修を

実施。洋上慰霊同様、10班に分け、グループリーダーを中心に取組む。研修1では遺児慰親友好親善事業の創設から本団までの35年の軌跡、ミャンマー学校建設の経緯、平和の語り部事業について説明した。その上で訪問する学校の児童へ贈るメッセージと折鶴の

協力に依頼、合唱練習をした。研修2では配布した目録、家族史を作成し、リーダーによる進行で座談会を実施した。参加者により多く出た意見を一部紹介する。

- (1) 慰霊について
 - ・命の限り慰霊霊絆に参加したい。
 - ・初めて参加しミャンマーの地で「お父さん」と呼びかけることが出来て感激した。
 - ・一人っ子だが、本団に参加し、血肉より濃い兄弟姉妹を得た。父の緊いできた縁。恒久平和のために尽力したい。
 - ・詳しく調査した資料をもらい、説明をつけ、初めて父の足跡を知ることが出来た。
- (2) 語り部研修について
 - ・消えてしまおうような意見の中に地球を救うような貴重な意見が。今回の研修会はまさにそれだ。
 - ・記憶を語り継ぐ大切さの気持ちを感じた。
- (3) 次世代からの意見
 - ・初めて父・母(遺児)の気持ちを聞いた。戦争を痛感した。帰ったら地元紙に体験を報告したい。
 - ・語り部活動に参画したい。遺児の方の追悼文を聞いて、戦争の悲惨さを痛切に感じた。
 - ・足の悪い母が一人で行くと聞いて同行した。足が悪くても行きたいと思えるほど、祖父に会いたいという気持ちで理解できた。同行して良かった。
 - ・日本で聞くのと現地ですべては浸透力が違う。次世代が親と共に慰霊することに非常に意味があると思った。

これまで遺族会、戦争など別世界のものとどかして思っていたが、今回の体験を通して戦争のことがよくわかった。現地でも同じ境遇の遺児同志、国内では語り部校修繕募金に賛同したい左記の方々に心よりお礼申し上げます。

賛同名(敬称略)
馬場勝利 山本稔雄
島山正則 東川雄一 川又暁子(以上、3月1日から3月末日まで)
本会は引き続き現地の情報収集に努め、小学校の修繕に取り掛かることにしている。

のどろえ方が変わった。個人慰霊祭で親をはじめ、遺児の方の追悼文を聞いて、戦争の悲惨さを痛切に感じた。足の悪い母が一人で行くと聞いて同行した。足が悪くても行きたいと思えるほど、祖父に会いたいという気持ちで理解できた。同行して良かった。日本で聞くのと現地ですべては浸透力が違う。次世代が親と共に慰霊することに非常に意味があると思った。

これは、遺族会、戦争など別世界のものとどかして思っていたが、今回の体験を通して戦争のことがよくわかった。現地でも同じ境遇の遺児同志、国内では語り部校修繕募金に賛同したい左記の方々に心よりお礼申し上げます。

賛同名(敬称略)
馬場勝利 山本稔雄
島山正則 東川雄一 川又暁子(以上、3月1日から3月末日まで)
本会は引き続き現地の情報収集に努め、小学校の修繕に取り掛かることにしている。

もはばかられた胸の奥にしまった思いを吐露し、付添者共々、「心揺さぶられる」体験となった。本研修を通して語り部の育成と次世代への継承を企図する新たな兆しを

感じた研修会となった。本会は、35年の意義を踏まえ、重ねた新事業に次世代へ継承する新事業の検討に入る。戦没者への慰霊と記憶の継承を担う本会の挑戦は続く。

作成した自分史を発表するグループリーダー = 3月12日、ヤンゴンで

ミャンマーの小学校 修繕に向けて

本会が全国の遺児の浄財により建設寄贈した学校3校のうち、2校を訪問した。2校の詳細は以下の通り。

○北オカラッパ第14小学校(ヤンゴン) 平成12年竣工。校舎2棟、視聴覚教室の建設。教員室、トイレの新設。運動場の整備。

○カドウィンチャンン小中学校(ベグー) 平成14年竣工。校舎1棟、視聴覚教室、給水塔を建設。



ミャンマーとの交流を称える吉武臨時代理大使 = 3月11日、大使公邸で

両校とも建設から25年余が経過し、老朽化が著しい状況。天井板がはがれ、雨漏りする教室の窓も壊れ、応急措置として板が貼られ使用できない状況となっていた。特に学校を囲むように小川が流れる北オカラッパ第14小学校の状況は深刻だった。

水落総括団長は、在ミャンマー日本国大使館吉武将吾臨時代理大使に



懇談会で謝辞を述べるミャンマー教育省代表 = 3月11日、ヤンゴンで

状況を伝え、早急な修繕に向け協力を仰いだ。吉武大使は、本団の実現に向け各種対応、調整に尽力。ミャンマー国内の情勢も踏まえ、検討したいと語った。

あわせて、懇談会に出席したミャンマー教育省

代表に対し、修繕に向け募金を集めており、速やかに取り掛かりたい意向を述べた。担当者は謝意を述べ、省として何が出来ると語った。

本会は来年にも修繕を加速化する。

ミャンマー小学校 修繕募金のお礼

日本遺族会がミャンマーの現地に寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、その修繕費用を集めるために開

日本遺族会ではミャンマー(旧ビルマ)に建設贈した小学校の修繕費用の寄付を募っています。本会は平成11年度から3年計画で、北オカラッパ第14小学校(ヤンゴン郊外)、カドウィンチャンン小中高等学校(ベグー)、バンドゥータズー小学校(アキヤブ)の3校を竣工、贈呈しましたが、建設から20数年が経過し、校舎等の老朽化が進んでいます。2021年の軍事クーデター以降、ミャンマー国内の政情が不安定なため渡航が困難とされているなか、外務省大洋州局、在ミャンマー日本国大使館とも協議を重ねた結果、本年3月に「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」でミャンマー地域の訪問が実施されました。そして、治安が安定して、入城が可能な北オカラッパ第14小学校とカドウィンチャンン小中高等学校の2校を訪問しました。小学校を訪問した際には、現状の視察を行い、学校側の要望を聞き取りました。壊れた校舎の修復など募った寄付金の使途、今後の支援について慎重に検討します。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

銀行名：三井住友銀行 神田支店 口座番号：当座預金 1015126
口座名：一般財団法人 日本遺族会(ザイ) ニホンノゾクカイ

本会への
賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。なお、賛同者の都道府

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集活動等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただけますようお願い申し上げます。

郵便振替
0013026694999
みずほ銀行 九段支店
普通預金 000000300

※口座名：一般財団法人日本遺族会(ザイ) ニホンノゾクカイ

昭和館 昭和映画録 二度の黄金時代 映画で昭和時代を振り返る

昭和館では、令和8年3月20日から5月10日にかけて、特別企画展として「昭和映画録 二度の黄金時代」を開催している。昭和100年を迎え、この展覧会では、昭和期に二度の黄金時代を経て発展してきた日本の映画の歴史を通して、社会・文化と大きく変容を遂げた昭和の時代を振り返る内容となっている。

昭和館の3階特別企画展会場では、「昭和映画録 二度の黄金時代」は、一度の黄金期を経験し、1950年代、この黄金期の間には、戦争と占領が3月20日(金)祝か映画からトーキー映画に代わる1930年代、そして映画が社会娯楽の中

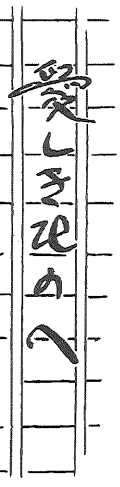
益々軍務精勵致します

陸軍歩兵上等兵 水野 利三郎

昭和十四年七月十七日
中華民國・山西省鄭家莊附近にて戦死
静岡県浜名郡笠井町出身 二十三歳

お父さん初め皆んな元気な事です。故郷の桜の花が咲き出しきれいな事と思います。(中略)
お父さん初め皆んな元氣な事です。故郷の桜の花が咲き出しきれいな事と思います。(中略)
お父さん初め皆んな元氣な事です。故郷の桜の花が咲き出しきれいな事と思います。(中略)

【令和八年四月靖国神社社頭掲示
愛しき花のつぼみ



昭和映画録 二度の黄金時代

2026.3.20(金) 5.10(日)

3階特別企画展会場

〒410-0001 静岡県静岡市清水区清水三丁目1番1号

TEL:054-261-1111

www.shochuikan.jp

九段短歌

作品募集

お寄せください

選者 村田 信宣

朝な夕な供ふる縁音とすじの安堵のけがゆるゆる
たゆと
青空に山形の塔静かなり献花に舞やひとらの蝶
洋上の懸雲彩に見し水糸線眩し朝日亡亡の頭ち来
ガ島にて二十五歳で果てし兄弟を偲びて九十路を歩む

愛知県 岡田 和幸

「代」では、昭和12年の日中戦争勃発以降、映画が娯楽のみならず、国策宣伝を担うメディアとして利用されていく様子を取り上げ、展示には、「忠臣蔵」や「陸軍」の映画ポスターのほか、国民学校の児童が「海軍」の映画を観て描いた作文綴りなどが紹介される。

「III 復興・再びの黄金時代」では、戦後の占領期を経て迎えた、日本映画の二度目の黄金時代について紹介されている。資料には、「丹下左膳」や「愛染かつら」などの映画ポスターのほか、日本劇場的写真などが展示される。「II 戦争と統制の時代」の「東京物語」や「ピルメの堅琴」などの映画ポスターが並ぶ。

参加者募集 締切迫る

日本遺族会では、沖縄県遺族連合会と共催で実施する「第65回沖繩平和祈願慰霊大行進・平和の語り部研修会」の参加者を募集している。

戦争の記憶を次世代へ伝承するために、先の大戦で多くの尊い命が失われた沖縄戦を振り返り、平和の語り部として推進している。平和祈願慰霊大行進、那覇市、那覇市内のホテルまで、往復交通費は個人負担となるので、各自で手配願いたい。

参加者募集要項は以下のとおり。

- ▼期間 6月22日(月) 24日(水) 2泊3日。
- ▼費用 4万円〜5万円程度。
- ※費用には宿泊代、食事代、バス借上げ代、添乗員費用、懇談会費用等が含まれる。
- ②参加人数により費用が異なる。また、自宅から沖縄の往復交通費、那覇空港から集合場所となる那覇市内のホテルまでの往復交通費は個人負担となるので、各自で手配願いたい。
- ▼宿泊 那覇市内のホテル。
- ▼申込先 在任する各都道府県遺族会事務局へ。
- ▼申込締切 5月8日(金)

ひめゆりの塔前から摩文仁までの約4キロを行進

昭和100年企画 朗読劇のお知らせ

日本遺族会は昭和100年企画として全国47都道府県で「昭和の日」関連イベントを実施し、本部は佐賀県遺族会西田富子会長考案の朗読劇と事後学習を予定。体験者、青年部、児童・生徒の参加を募集している。

日時は左記の通り。
日時：令和8年4月29日(水) 祝(午前11時)

場所：九段会館テラス
4階日本遺族会会議室
桐・あやめ 問合せは語り部事業本部まで。
電話03-32661-5521

今年も靖国神社の桜は気高く咲き誇り、多くの参拝者を楽しませてくれました。今月のお歌に「色褪せた父の遺品の日記帳と我が名が日々綴られて」とあり、お父様が出征をされる前の姉妹の成長を記した日記帳をお父様から出ておられたらどうでしょうか。日記はセピア色に変わろうとも父親の愛情は不変である事を実感された作者の切ないお歌でした。(選者)

九段短歌 作品募集

日本遺族通信の九段短歌では、読者の皆様様の作品を募集しています。

◎作品には必ず住所氏名を明記してください。お寄せいただいた作品の返却はいたしませんので、予めご了承ください。また、青年部皆様の作品も歓迎します。

3月発行の第903号で、次の誤りがありましたので訂正し、深謝いたします。

・4面「日軍旗返還」で、吉田利昭都連合遺族会会長と記載しましたが、緑川一男氏の誤りでした。

地方めぐり

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

- ▼徳島県 1月10日 第103回語り部事業
- ▼三重県 1月13日 三重県遺族会新年初会議
- ▼奈良県 1月17日 戦後80周年記念奈良県遺族会新年大会(705人)
- ▼長崎県 1月19日 令和7年度長崎県連合遺族会研修会(150人)
- ▼高根県 1月27日 令和7年度役・職員合同研修会(語り部研修会)
- ▼山梨県 3月5日 第50回女性部大会(97人)
- ▼富山県 3月5日 「平和の語り部」研修会(40人)
- ▼愛媛県 3月10日 令和7年度愛媛県遺族会研修会(300人)
- ▼徳島県 3月14日 第104回語り部事業研修会(60人)
- ▼石川県 2月28日 石川県遺族連合会本部役員合同座談会(20人)
- ▼栃木県 3月3日 令和7年度栃木県遺族連合会平和の語り部研修会(150人)
- ▼山梨県 3月5日 第50回女性部大会(97人)
- ▼富山県 3月5日 「平和の語り部」研修会(40人)
- ▼愛媛県 3月10日 令和7年度愛媛県遺族会研修会(300人)
- ▼徳島県 3月14日 第104回語り部事業研修会(60人)

お詫び

3月発行の第903号で、次の誤りがありましたので訂正し、深謝いたします。

・4面「日軍旗返還」で、吉田利昭都連合遺族会会長と記載しましたが、緑川一男氏の誤りでした。